―― 飲酒運転根絶

安全運転 ワンの思い

ナゴの日 協会員ら呼び掛け

【名護】交通事故、飲酒運転をなくそうとナゴのラブ（越）の二匹も参加。安全天のムービー（犬）と一にちなんだ月五日、立ち位置に座り、自慢の嗅覚で、安全運転キャンペーンが行われた。名護地区交通安全協会の会員、名護警察署の松田光子さんの飼い犬。二匹は二年以上も同地区の交通安全委員を務め、昨年病気でなくなった越ら約五十人が安全運転を呼び掛けるチラシ三百枚と清涼飲料をドライバーに手渡した。

キャンペーンには、交通安全協会の行楽客にも安全運転を心掛けるよう呼び掛けた。北部はもちろん中南部からも人が訪れるとあって、野原宰子会長は「暑い中、ワンちゃんも訴えている。夏休みが近づいているが、掛けてほしい」と呼び掛けた。

名護地区交通安全協会の人（61）は「主人の意志を継いでいるようだ」と目を細める。

交通安全を呼び掛ける交通安全犬のラブ（手前）とムービー、飼い主の松田光子さん＝名護市許田

「飲酒運転根絶」

200人が呼び掛け

那覇、振り込め防止も

飲酒運転根絶と振り込め詐欺被害の防止を訴える取り組みが三日、県庁前の県民広場であった。全国一斉に展開されている「飲酒運転根絶推進大会」（主催・県警、県飲酒運転根絶連絡協議会）では被害者遺族や各事業者の計約二百人が国際通りを行進するなどして、県民全体の取り組みを呼び掛けた＝写真。

大会では十二歳の時に飲酒運転被害で母親を亡くした心理療法士の真栄田絵麻さん（五五）が体験を語った。

真栄田さんは「四十年間殺したいほど加害者を憎んだが、別の死亡事故の加害者家族から相談を聞き、加害者側も被害者と同じように苦しんでいることを知った。誰もが被害者になる飲酒運転は絶対にやめてほしい」と訴えた。

「振り込め詐欺被害防止キャンペーン」（主催・県銀行協会、県金融機関防犯連絡会、県警）では、振り込め詐欺の手口を紹介する寸劇を通して沿道の人々に注意を喚起した。

アトピー性皮ふ炎
漢方良薬あり
大天堂薬局
国際通り三越前
☎863-1677

家庭で機運高めよう

南城 飲酒運転根絶で講演会

【南城】県と南城市が主催する「飲酒運転根絶講演会in南城市」が七月三十一日、南城市大里農村環境改善センターで開かれた＝写真。

県内での飲酒運転が依然として全国に比べて多くなっている状況を改善することなどを目的に開かれた同講演会では、那覇地区交通安全協会の松田安平事務局長が「飲酒運転根絶のために」と題して講演したほか、改正道交法に関するドキュメンタリーDVDの上映が行われた。

講演で松田事務局長は自宅で来客に酒を出した際に、車の鍵を預かったにもかかわらず客が合鍵を使って車で帰宅し、交通死亡事故を引き起こしてしまった例を示しながら「客に酒を飲ませたら、タクシーを呼んで見送るところまでした方がいい」などとアドバイスした。

さらに死亡事故を引き起こした場合、補償問題が本人だけでなく家族にまで重くのしかかることを説明し「悲劇を繰り返さないためにも、おのおのの家庭から飲酒運転根絶の機運を高めることや、運転する人たち一人一人の意識改革などが必要だ」と訴えた。

体が空中に浮いた

八重山署で飲酒疑似体験

【八重山】八重山地区交通安全協会（野原裕佳会長）や交通安全指導員など約五十人が二十二日夜、秋の全国交通安全運動の一環として、飲酒運転防止を呼び掛ける盛り場ローラー作戦を石垣市美崎町の飲食店で実施した。

八重山署交通課の上間誠課長は、死亡事故に占める飲酒絡みの事故の割合が二〇〇七年度は全国平均8・1％で沖縄は17・5％と全国の二・二倍で十三年連続ワーストの状況であることなどを説明した。

講演後は参加者は飲酒疑似体験ゴーグルを使って飲酒した状態を体験した＝写真。石垣交通安全母の会の玉津英子さん（六）さんは「体が空中に浮いたみたいで、まっすぐ進もうと思うほど横へ横へ進む。やっぱり飲酒運転はあぶないと思った」と実感していた。